

令和2年度上半期の実績により見えてきた課題について

1【住宅探しについて】

- ・現在、限られた不動産店へ相談に行っている
- ・80歳以上は相談できない不動産店が多い



- ・市内の不動産店への協力を求めるには・・・
- ・高齢者世帯、障害者世帯の入居について、サポートがあることで理解が得られるか
- その他、どんなことが必要か

2【支援について】（主に障害者世帯）

何においても判断することが難しい世帯等（主に障害者世帯）



どこまでの支援をしたらよいか、このような繋ぎ方でよいか

事務局担当者がその都度相談にのり、事案ごとに解決への手助け

例) ・判断・決定すべきところで、他人からの言葉に惑わされる

- ・何から始めたらよいかわからない（引越の準備等）



関係機関へのつなぎ

- ・社会福祉協議会
- ・相談支援センター「エポック」
- ・就労支援センター「一歩」
- ・男女平等推進センター「パリテ」
- ・地域共生課
- ・生活福祉課
- ・高齢者支援課
- ・東京都多摩小平保健所
- ・地域包括支援センター

【事例】 親（高齢）、子（愛の手帳）、子（精神障害手帳）の3人世帯 住宅探しの相談（一部）

- ・住宅探しは、内見し、審査通過した。 ⇒

近所の知り合い不動産屋から「なぜうちを使わない」と言われ、審査通過した物件を勝手にキャンセル → 住宅課で再調整

- ・お金がない ⇒

契約金を出してしまうと引越費用がなくなる → 金融機関の年金担保貸付を受けるためマイナンバーカードの作成等、必要な物を準備。その間に知り合いから借金して解決

- ・引越業者との調整、引越準備 ⇒

住宅課で住居へ行き、何を捨てるのか（粗大ごみ等）を決め、便利屋を活用して物の処分については終了、その後段ボールを使っての荷造りを指示

- ・転居とは関係ないところで相談 ⇒

子の就労について → 住宅課で、相談センター「エポック」と就労支援センター「一歩」へ相談し繋ぐ

- ・これからマンション売却金が入るが、娘が金庫を買って自宅で管理すると言っている

⇒

社会福祉協議会へ相談。金銭管理等について不安があるため本人に確認のうえあんしん西東京の制度活用を検討